

ID	
氏名	
年齢	
科名	病棟

リツキシマブ療法 【全身性強皮症】

1 週毎 4 コース予定

疾患名 全身性強皮症

主治医 指導医 HBs 抗原() HBs 抗体() HBc 抗体() HCV 抗体()
スケジュール

	day 1
リツキサン(リツキシマブ) 375 mg/m ²	↓

【注意】 * 初回投与は必ず入院で実施すること。

* 体温・脈拍・血圧測定・SpO2 測定は up 直前におこなうこと

☆通常量より減量する際の理由☆

(レジメン)

【初回】 * 初回投与は必ず入院で実施

① カロナール錠 500 mg _____ 錠 内服

ポララミン錠 2 mg _____ 錠 内服

☆30 分後より

② 生食 500 mL にて血管確保 維持 (20 mL/時間)

③ リツキサン + 生食 適量 (10 倍希釈)

◎ 輸液ポンプにて 50 mL/時間で点滴静注

④ 50 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 100 mL/時間で点滴静注

⑤ 100 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 150 mL/時間で点滴静注

⑥ 150 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 200 mL/時間で点滴静注

⑦ 200 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 250 mL/時間で点滴静注

⑧ 250 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 300 mL/時間で点滴静注

⑨ 300 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

リツキシマブ療法【全身性強皮症】

◎ 輸液ポンプにて 350 mL/時間で点滴静注

⑩ 350 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 400 mL/時間で点滴静注

【2回目以降】 1 コースにおいて発現した有害事象が Grade 2 以下であった場合

① カロナール錠 500 mg _____ 錠

ポラミン錠 2 mg _____ 錠 内服

☆30 分後より

② 生食 500 mL にて血管確保 _____ 維持 (20 mL/時間)

③ リツキサン _____ + 生食 適量 (10 倍希釈)

◎ 輸液ポンプにて 100 mL/時間で点滴静注

④ 100 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 200 mL/時間で点滴静注

⑤ 200 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 300 mL/時間で点滴静注

⑥ 300 mL/時間で 30 分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 400 mL/時間で点滴静注

	コース	コース	コース	コース
月日	/	/	/	/
リツキサン 開始時刻	↓	↓	↓	↓
確認				